



平成 28 年 1 月 19 日

各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ  
代 表 取 締 役 社 長 狩 野 仁 志  
( J A S D A Q ・ コード 3 8 0 7 )  
問 い 合 わ せ 先 :  
取 締 役 管 理 本 部 長 松 崎 祐 之  
電 話 番 号 0 3 ( 5 7 7 4 ) 2 4 4 0 ( 代 表 )

### 子会社の通期連結業績予想値と決算値との差異に関するお知らせ

当社子会社である株式会社ネクスグループは、同社の平成 27 年 1 月 19 日付で公表しました平成 27 年 11 月期の連結業績予想数値と実績値に差異が生じた旨を公表しましたので、添付資料のとおりお知らせいたします。

なお、本件が当社の平成 27 年 12 月期連結業績に与える影響につきましては、現在精査中であるため、確定し次第、速やかにお知らせいたします。

以 上

平成 28 年 1 月 19 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ネ ク ス グ ル ー プ  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 秋 山 司  
 (JASDAQ・コード 6634)  
 問 合 せ 先  
 役 職 ・ 氏 名 代 表 取 締 役 副 社 長 石 原 直 樹  
 電 話 03-5766-9870

## 平成 27 年 11 月期通期連結業績予想値と決算値との差異 に関するお知らせ

平成 27 年 1 月 19 日に公表いたしました平成 27 年 11 月期通期連結累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

平成 27 年 11 月期通期連結累計期間業績予想数値と決算数値との差異  
 (平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 11 月 30 日)の連結業績予想との差異

(単位:百万円未満入り捨て)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回予想(A)	11,377	990	973	769	62.43
今回実績(B)	7,416	△529	△810	△45	△3.14
増減額(B-A)	△3,974	△1,558	△1,783	△814	
増減率(%)	△34.9	-	-	-	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 11 月期)	6,375	82	692	630	54.07

### ○差異の理由

デバイス事業において、当初より当期および来期以降の当社売上に大きく寄与する自動車テレマティクス分野の新製品2機種の販売を予定しておりましたが、下記理由により売上が大きく減少致しました。また、当該新製品は非常に利益率が高かったことから、営業利益も大幅に減少しました。

新製品の内の1種「OBD II型データ収集ユニット」の販売において、大手自動車関連企業に対しODM生産を行ない製品の提供を行なう予定でしたが、顧客からの仕様変更の要求が有り追加開発を行い販売計画が大きく遅れ、顧客都合によりさらに販売計画が延期のうえ頓挫致しました。そのため、当期の売上予定から約19億円の売上減となり、追加開発や付随する対応により、原価および販管費が増加する結果となりました。「OBD II型データ収集ユニット」につきましては自社ブランドでの販売も開始しており多くの引き合いが来ております、また、今般のODM開発により、顧客事の細

かな要求に対応しカスタマイズしていくノウハウも蓄積されたため、当期の売上減少分につきましては、来期に自社ブランド製品および、カスタマイズ品の販売により需要の取り込みを行なってまいります。

また、もう1種の新製品においては顧客より仕様追加の要求が有り、追加開発を行ったため販売開始が大幅に遅れ、当期の売上の一部が来期にずれ込んだ結果、約13億円分の売上減となりました。こちらにつきましては、当該第4四半期より販売を開始しております。販売が遅れた事による機会損失の懸念はありますが来期中に全ての受注を目指します。

その他、既存デバイス製品4製品につきましても、当初想定よりも顧客側の所要が減少したことによる売上の減少、顧客側の機器の不具合による販売延期による売上の減少、不具合のためソフトウェア書き換えなどによる販売の一時中止の影響などにより約10億円の売上減少となりました。

7月より連結子会社化したSJIにつきましては、7月から10月迄の業績を取り込んでおります。7月より経費削減に取り組んでまいりましたが、当期の業績には十分に寄与しませんでした。また、連結決算にあたり、SJIが海外子会社である、恒星情報(香港)有限公司の円建て負債の為替換算の影響により、営業外費用195百万円を計上したことと、当社がSJIの株式取得に関するのれん代の償却として256百万円を計上したため、営業損失、経常損失を計上する結果となりました。

SJIの業績につきましては、すでに単月黒字化となった事と、特設注意市場銘柄指定による、受注の影響を最小限にとどめるべく、随時顧客への説明を行い、信頼回復への努力を続けたことで、来期以降は業績への貢献が期待できます。

上記の結果、当社の売上高は、7,416百万円(予算数値は11,377百万円)となりました。営業損失は529百万円(予算数値は営業利益990百万円)、当期経常損失は810百万円(予算数値は経常利益973百万円)となり、当期純損失は45百万円(予算数値は税引前利益769百万円)となりました。

なお、平成28年11月期につきましては、農業ICT事業の本格始動、OBDⅡ型自動車テレマティクスデータ収集ユニット「GX410NC」の販売拡大、成長分野でのシステム開発案件、積極的なインバウンドの取り込みなどをおこなってまいります。

また、SJIにつきましては、今期7月から10月までの業績を取り込みましたが、来期は2015年12月21日にSJIが公表した平成28年10月期の連結業績予想数値(売上6,300百万円、営業利益424百万円、経常利益371百万円、親会社株主に帰属する当期純利益377百万円)を取り込む予定です。

さらに、ネクスでは今期販売予定であった自動車テレマティクス分野の新製品2機種の本格的な販売開始により、営業利益ベースで約300百万円の増益を予定しております。

その他の子会社につきましても、引き続き売上げの拡大と業務の効率化を継続する事で、業績に寄与してまいります。

以上により、次期の見通しについては、売上高12,910百万円、営業利益112百万円、経常利益108百万円、当期純損失308百万円を計画しており、EBITDAは733百万円となります。

SJIの連結子会社化によるのれん償却額541百万円の計上により、営業利益以下の利益が大幅に引き下げられることとなりました。のれん償却額は現預金の流出を伴わない費用であるため、キャッシュフローの増減と、営業利益以下の利益項目の増減に大きな乖離が発生します。この点を考慮し、参考指標として新たに「EBITDA」開示させていただくことに致しました。

「EBITDA」=営業利益+減価償却費+のれん償却額(販売費及び一般管理費)

また、上記の見通しにつきましては、開示日現在において想定される売上およびコストを保守的にみて作成しております。現在交渉中の案件も含めて、今後も継続してさらなる売上げの獲得と、



グループ全体で効率化を図り、コストの低減を実現させることで、利益を増大させる様に取り組んでまいります。

以 上